

■（１１０）新聞配達の技を記した「順路帳」

雪国の子供たちに笑われるかもしれない。首都圏は久しぶりの大雪で混乱した。道路が通行止め、電車はストップ、歩行者は転倒…。高校サッカーの決勝も延期された。

首都圏の新聞は翌朝、お知らせを掲載した。新聞は雪でも休まないが、さすがに配達時間が遅くなるかもしれないとの「お断り」だった。印刷は前夜～未明なので、予想される混乱を先回りして「謝罪」する内容だった。新聞は通常、バイクや自転車、徒歩で配る。雪で足元が悪いといつものようには走れない。配達員は本来、受け持ちの読者宅をどういう順番で回ったら効率よく届けられるかを経験から知っている。順路を記号で書きこんだ帳面は「順路帳」と呼ばれる。担当者が病気で休んでも、代役が順路帳を見れば、遅れないでいつも通りに配達できる。インターネットの地図ソフトでは検索できない「職人技」のマニュアルだ。ただ今回は、そんな蓄積でカバーできる大雪ではなかったようだ。

九州育ちで雪を見ると外で遊びたくなる。通学路の安全が重視される最近、寄り道は御法度か。子供らの「順路帳」が、学校と塾、自宅の三角形ではないことを願う。

（山）